

《資料編》

第10章 1. 八重山群島におけるオウシマダニ撲滅の推移



年 度	与那国島	内・外離島	西表島	波照間島	新城島	小浜島	黒 島	竹富島	石垣島
昭和60年							◎		
61							↓		
62									
63									
平成元年							↓		
2	◎			◎	☆	◎	☆	◎	
3	↓		◎	↓		↓		☆	
4	↓		↓	☆		☆			◎
5	☆		↓						↓
6			☆						↓
7									↓
8		◎							☆
9		☆							

◎ 重点指導地区としてダニ駆除開始

☆ 撲滅達成

2. 沖縄牧野ダニ駆除事業の推移

年 度	国庫補助金(千円)	牛体駆除頭数	薬剤使用料	補助率	事業名						
昭和46年度	63,921	162,745	2,502	10/10	石垣島牧野ダニ駆除事業						
47	66,241										
48	61,964										
49	63,431	131,112	2,183		10/10	沖縄牧野ダニ駆除促進事業					
50	68,952										
51	62,071										
52	37,096										
53	35,237	513,870	11,747			10/10	沖縄牧野ダニ清浄化対策事業				
54	34,158										
55	33,405	421,680	9,211					10/10	沖縄牧野ダニ清浄化対策事業		
56	35,163										
57	33,595										
58	31,318										
59	33,595	436,967	8,118	10/10						沖縄牧野ダニ清浄化対策事業	
60	34,024										
61	35,460										
62	31,914										
63	28,723	576,741	10,493		10/10						沖縄牧野ダニ清浄化対策事業
平成元年	27,015										
2	26,953										
3	27,371										
4	59,180	170,090	382 (A剤) 5395 (B剤) 167 (E剤)			10/10 9/10	沖縄牧野ダニ撲滅対策事業				
5	62,274										
6	12,443	17,532	734 (B剤)					9/10	沖縄牧野ダニ撲滅対策事業		
7	8,277										
8	10,880	4,081	263								
9	12,089										
10	10,876	7,243	580	9/10		沖縄牧野ダニ清浄維持対策事業					
10	10,876										
合計	1,047,626	3,059,0340	51361 (A剤) 13938 (B剤) 437 (E剤)					A剤：アズントール (kg) B剤：バイチコール (ℓ) E剤：ETB乳剤 (ℓ)			

第11章 業績発表抄録

牛の薬浴日を活用した指導体制づくり（第1回）昭和49年度

中央家畜保健衛生所八重山支所
那根 元、山城英文、他

第14回全国家畜保健衛生業績発表会で発表した「石垣島牧野におけるダニ駆除の効果」の中で、放牧牛およびけい牧牛の薬浴の徹底が、ダニ駆除の効果を上げる最も重要なポイントであると考察した。「1頭の牛ももれなく月2回の薬浴を完全に実施しよう」のスローガンのもとに、各地区に牛の薬浴日を設定し、これを中心として関係機関の技術員を網羅し、地域畜産の総合的振興を図るための活動を行った。

第1線における指導業務は、関係機関が横の連けいを密にし、指導員の考え方の統一を図ることにより、一貫した畜産の方向を示し、指導効率を高めることが出来るものとする。

関係機関の現場におけるそれぞれの所掌業務は、すべて薬浴場で薬浴日を利用し、そこに畜主と牛をより多く集めることにより業務の能率化、薬浴の実績向上および畜産の総合的振興という相乗効果をねらったものである。

現場業務としては、牛の薬浴、妊娠鑑定、繁殖障害の除去、一般健康検査、伝染性疾患の検査、地方的疾患の調査、繁殖調査、県有牛および導入牛の島査検査、子牛の去勢、登記登録、各種指導業務、畜産相談、畜産情報の伝達収集およびその他のサービス業務等を実施した。

主なる成果については他にも諸要因があるが、総合的指導による効果も極めて大きいものがあると評価し、つぎにその事項をあげる次第である。

薬浴頭数の増加、薬浴場の増設、繁殖率の向上、牛の飼養頭数の増加、草地改良の普及、登記登録の普及、子牛去勢の普及、せり市上場頭数の増加、畜産組合によるダニ駆除原勝負の開催等である。

石垣島牧野における3年間のダニ駆除成績（第1回）

中央家畜保健衛生所八重山支所
玉 城 敬、山城英文、他

沖縄の主なる肉用牛の生産地である石垣島はダニが媒介する原虫病の発生、まん延並びにダニ吸血による損耗等が、畜産振興の最も大きな阻害要因となっている。

この問題を解決するために、昭和46年から48年まで、農林省の全額補助による大規模な牧野ダニ駆除事業を終了したので、その成績を報告する。

本事業は総額約2億1千万円で、石垣島牧野の放牧地29カ所けい牧地14カ所で延32,156.4haに858,376kgの薬剤を散布した。

散布は毎年6月、7月、9月、10月の4回で、ヘリコプターによる空中散布と、ダスターによる地上散布とした。

使用薬剤名は低毒性有機リン系微粒剤、カーバメイト系粉剤、カーバメイト系微粒剤を、1ha当り30k

gを散布した。

牛体ダニ駆除は持続性有機リン系殺虫剤、1,000倍液を15日間隔で使用し、ディーピングは延104,878頭でスプレーは延58,995頭で2,520kgの薬剤を使用した。

草地ダニ調査は放牧地18カ所、けい牧地15カ所を対象とした。

第1年目調査平均14.76匹、2年目1.94匹、3年目は11.86匹である。

牛体ダニ調査は放牧地11ヶ所、けい牧地11ヶ所で延1,986頭の成牛、子牛を対象とした。

第1年目調査平均55.0匹、2年目平均7.35匹、3年目平均11.25匹である。

アナプラズマ及びその他の原虫の保有状況は検査頭数延3,544頭で、タイレリヤ陽性平均53.8%、アナプラズマ陽性平均13.1%である。

牧野ダニ清浄化の推進について（第2回）昭和50年度

中央家畜保健衛生所八重山支所

那根 元、山城英文、他

八重山諸島において、昭和46年～50年の5年間、大規模な牧野ダニ駆除事業を実施してきた。はじめの頃は目ざましい効果がみられたが、ダニがゼロに近づくにつれてその効果は目立たなくなってきた。

しかし牧野ダニ駆除は、長期にわたるダニとの戦いであり、いまそこで手をゆるめたりすると容易に元へもどることは明らかである。ということで我々はあらゆる機会をとらえて積極的に広報活動を展開し、畜産農家の志気を鼓舞した。そのため月2回の薬浴は殆んど確実に実施されるようになったが、全頭数完全に実施できないことに問題が残されている。そこで我々は牧野の清浄化をめざして、指導の方法を転換する時期であると考え、つぎのように計画推進した。

(1) 全体指導としては牛体薬浴に重点をおく。

(2) 重点指導牧野を選定する。

(3) 清浄化牧野をつくり出す。

1頭の牛ももれなく月2回の薬浴を完全に実施すれば、牧野の清浄化は可能である。

しかし、全牧野を一斉に清浄化することは、極めて困難であるので、重点指導牧野を選定し、比較的可能な牧野から清浄化を図り、これをモデル牧野として全牧野に波及させるように推進した。

重点指導牧野については、如何にして牛をもれなく追込むかが問題点であるので、牧野毎の立地条件を解析検討し経営者とコンサルテーションを行い、問題点の解決に努めた。

その成果として11カ所の重点指導牧野のうち、5カ所の清浄化牧野の出現をみた。

なお、残された問題点については今後とも検討を重ね、全牧野の清浄化をめざして継続推進しなければならないと考える。